








風水害に関する情報

雨の降り方と災害発生の目安

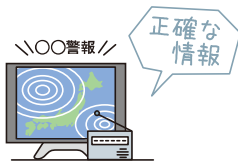
雨の降り方から被害の予想ができます。雨の降り方に注意し、警報や避難指示が出る前でも、危険と判断すれば、避難などの準備をしたり自主的に避難することも大切です。(雨量は1時間雨量(ミリ))

<p>10~20ミリ やや強い雨</p>  <p>ザーザーと降る この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。</p>	<p>20~30ミリ 強い雨</p>  <p>どしゃ降り 側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。</p>	<p>30~50ミリ 激しい雨</p>  <p>バケツをひっくり返したように降る 山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。</p>	<p>50~80ミリ 非常に激しい雨</p>  <p>滝のように降る(ゴーゴーと降り続く) マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。</p>	<p>80ミリ~ 猛烈な雨</p>  <p>息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる 雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。</p>
---	--	--	--	---

避難のポイント

正確な情報の入手

テレビ・ラジオ・ホームページで最新の気象情報などに注意しましょう。雨の降り方などに注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



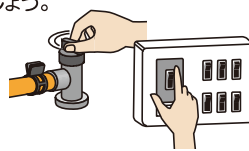
車での避難はよく考えて

緊急車両の妨げにならないかや、浸水の危険がないかを十分に考えましょう。万が一、途中で車を乗り捨てると、救助や避難の大きな妨げとなる可能性があります。



避難する前の確認

避難する前に、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めて、避難所の位置を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



要配慮者への協力

要配慮者(高齢者や障がい者など)は、早めの避難が必要です。ご近所同士で声をかけあうなど、周囲で協力しましょう。



安全な避難路を選ぶ

避難はできるだけ高い道路を選び、水路などには十分注意しましょう。また土砂災害警戒区域を避けるようにしましょう。



万が一逃げ遅れたときは

万が一避難が遅れ、危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。



非常持出品の事前準備を

避難するときの荷物は必要最小限とし、事前に準備しておきましょう。



動きやすい服装での避難を

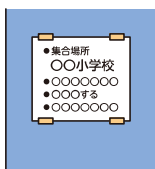
避難するときは、動きやすい服装で2人以上での避難を心がけましょう。



家族みんなで防災会議

家族一人ひとりの役割分担

日常の防災の役割と災害時の役割の両方を決め、順序立てて整理し、紙に書いて貼っておきましょう。



家屋の危険箇所チェック

家の内外をチェックして危険箇所を確認し、必要であれば修理や補修を行いましょう。



災害時の連絡方法や避難場所の確認

家族が離ればなれになった時の連絡方法や、避難場所を確認しておきましょう。下見しておくのも良いでしょう。

